



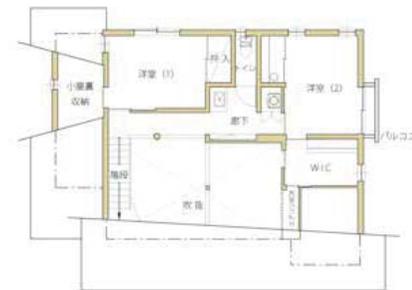
設計主旨

CONCEPT

前橋市中心街から南東に少し離れた閑静な住宅地で、近くには大学、高校や病院、大型のショッピングモールもある生活するには便利な場所である。住宅の敷地は比較的広い家が多く、商業店舗などと混在している。住まい手は、以前からこの地に住む50代の夫婦とその家族。もともと住んでいたコンクリート造の家からの住み替えを考えると、新築に至った。計画にあたって住まい手に一番提案したかったことは、「木という素材のチカラ」。住まい手は30年前この地にコンクリート造の家をつくり、暮らしてきた。その住まい手に対して「木の家」が魅力的に映るか、やはりコンクリートの家の方がよかったという結論になるかは、設計者としての技量が試されるところだ。

ひとくちに「木の家」といってもいろいろなかちがあると思う。今回の住まい手の要望からすると、民家型の骨組みをすべて現わしにしたといった「木の家」は望んでいない。そこで、他の素材と木の露出する割合（＝木視率）を慎重に考え、無垢の木を効果的に活かしていった。木以外の素材の選択として、高温多湿のこの地域を考えると調湿性のある素材の選択は必然である。今回は壁に珪藻土。天井仕上げに和紙を選んだ。これは住まい手が永く生活していた家のコンクリートという素材には無い性能であるため、通常以上に体感してもらえんことを期待した。完成後に新旧の住宅の温湿度測定を行い、その効果の高さを確認した。そしてコンクリートという固い素材の対比として要所のディテールで曲線を用いて、やわらかさも表現した。また、建設地は幹線道路沿いで、比較的人の目に付く場所。そして住まい手も地域のランドマーク的な建物を望んでいたため、外観に関しても、通りすぎる人の目に留まるように考えた。ただ、その際に街並みを壊すような奇抜なものは避けたいと思い、街並みに溶け込むようなシンプルな切り妻屋根の大きな葺き下ろし屋根で目を惹かされた。

2F 平面図



1F 平面図



講評

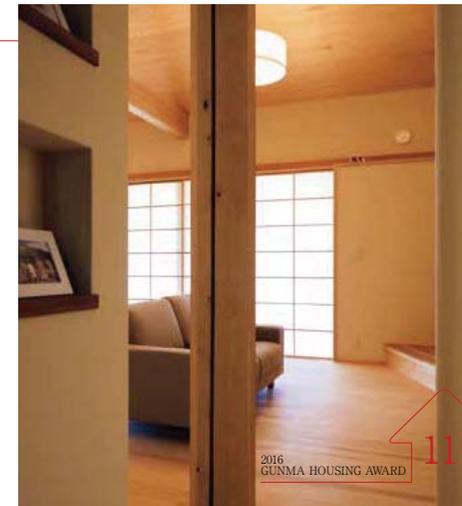
REVIEW

市街地の幹線道路沿いにあり、大きな葺き下ろし屋根が人の目を引く住宅である。この屋根と外壁の塗り壁と木部、庭の緑が調和して街並みに好印象を与えている。

内部は吹き抜けのあるリビング・ダイニングを中心にシンプルで無駄のない間取りで、さらに動線や使い勝手には細やかな配慮が行き届いている。県産木材を積極的に活用し、仕上げも床の赤松緑甲板、珪藻土などの塗り壁、天井に杉板や和紙貼りなど自然素材を用いて、落ち着いた空間となっている。使用する素材と色のバランス感覚が素晴らしく、上品な空間を作っている。

群馬の中毛地域の気候特性を良く読み取り、OMソーラーシステムを採用し、断熱性気密性も高めたパッシブなつくり、さらに風の流れを考慮した窓の配置と珪藻土の調湿効果で、四季を通して快適な室内環境を実現している。

手の触れる木部や建具の細やかな取まり、和室天井に埋め込んだ造作照明、要所のディテールで曲線を用いて柔らかさを表現するなど、設計と施工のレベルの高さがうかがえる優れた作品である。



優秀賞 | ぐんまの家

GUNMA HOUSING AWARD

(まちなか住宅賞)

六供の家

(ろっくのいえ)

設計者/株式会社 小林建設一級建築設計事務所

施工者/株式会社 小林建設

